

ORANGE Vol.16

1. コレクションに見る文人画と南画

田辺市立美術館と熊野古道なかへち美術館のコレクシ...

2. 画家とパレット

洋画家のパレットは、その創作技法の根幹が跡付く貴重...

3. 詩人たちの絵画

近代日本の芸術家の中には、高村光太郎を筆頭に、村山...

4. 素描とともに

画家や彫刻家はそれぞれに特徴的な素描も残しています...

5. 朝井閑右衛門展

学者、文学者らとの親交も多く、文人的な気質で独創的...



池大雅 (幽溪釣艇)

田辺市立美術館寄託品

特別展 コレクションに見る文人画と南画

(前期) 四月一日〜五月二〇日 (後期) 五月二六日〜七月一日

田辺市立美術館 熊野古道なかへち美術館

熊野古道なかへち美術館

KUMANOKODO NAKAHECHI MUSEUM

1. コレクションに見る文人画と南画

中国に学んだ日本の文人たち。さらにその先人たちに倣...

2. 花井正子展 紀州 LIVE...いとなみ

イラストレーターとして活躍してきた花井正子のライフ...

3. 林憲昭展 ひかりのかたち

日光写真(サイアノタイプ・青写真)を利用して布や紙に...

★美術館開放講座

昨年台風12号の影響により中止となった「音の森・松田...

絵画と出会う「この一点!」

★特別展: コレクションに見る文人画と南画

会期: (前期) 4月14日(土)~5月20日(日) (後期) 5月26日(土)~7月1日(日)

古くより東洋画に好んで描かれた四君子(蘭・竹・菊・梅)は、その気品ある美しさから...

《竹径清韻図》は凌雲34歳の時の作品で、吉野群山のスケッチを繰り返していた時期と重なります...

竹の葉は大きく3種類の墨と顔料で濃淡をつけて描き分けられ、最も薄く描かれた葉には青みのある顔料を使ってもややかかった空間を巧みに表現しています...

(学芸員 山本 泰代)

※展示会場 前期: 田辺市立美術館 後期: 熊野古道なかへち美術館

田辺市立美術館へのきもち⑦

このコーナーへの原稿依頼をされた時は全く狼狽に近い当惑を感じました。子供の時...

苦手な絵画ですが今までに多くの絵に出会いました。とりわけ印象的なものとして、青年期...

さて、一般的に精神科治療に「創造活動を精神障害の治療に応用しようとする芸術療法」として...

当院の外來待合所の本棚に、第8回全国障害者芸術・文化祭滋賀大会記念図録集である「アートはボーダレス」という本があります...

(紀南こころの医療センター病院長 精神科医 小野 紀夫)



編集後記

田辺市立美術館ならではの文人画と南画の世界を紹介する特別展を、この春本館・分館合同で開催します...

切り取り式の展覧会スケジュールは、毎回デザインに苦心しています。今年も少し昨年から変更してみました...

野呂介石《青緑梅林山水図》

題: 淮西平一両坪清緑墅

梅花照眼明霜鬢未

客問裏老南枝消息

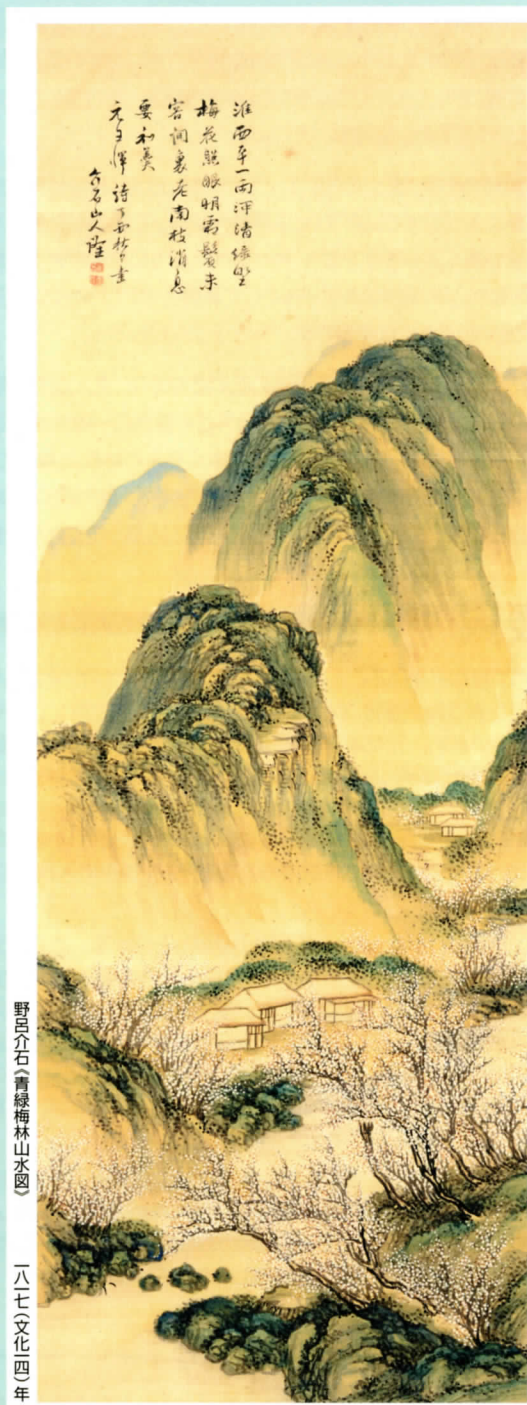
要和羹

款: 元王惲詩丁丑秋日画

介石山人隆「印」(白文楮円連印)

田辺市立美術館蔵

介石七十一歳の時の作品。左上方には中国元代の文人である王惲の七言絶句が記されており、この詩に呼応するかのよう...



野呂介石《青緑梅林山水図》

一八七文化四年

文人画と南画

文人画と南画の共通点や違ってなんでしょう。それを紐解いていく前に、まずは「文人画」「南画」それぞれの解釈を考えてみたいと思います。

まずは「文人画」ですが、発祥の地である中国では「文人画」は「士大夫(したいふ)画」と呼ばれ、科学(中国の官僚登用試験)に合格した役人(士大夫)が描いた絵のことをいいます。一方、「文人」は身分の高い読書人・知識人を総称した言葉です。この士大夫たちは難関の試験に合格した者たちなので、高い知識や教養をもっていました。そこで士大夫が描いた絵を「文人画」と呼んだわけです。文人画は中国・元代の末から清代の初めにかけて盛んに描かれ、江戸時代中ごろに長崎を通じて日本にやってきました。この中国趣味というか中国への憧れのようなものが、日本の武士階級や学者、商人など、士大夫ではないものの知識や教養を身に付けたいという人たちの間で一気に盛り上がり、独自のスタイルとして発展、盛んになりました。

次に「南画」ですが、南画は中国では「南宗画」と呼ばれました。これは、明の董其昌が画論「画禅室隨筆」で「禅宗が華北で北宗と南宗に分かれたように、絵画もまた南北二宗に分かれる」と説いたうえで、職業画家が描いた絵を北宗画と位置づけ、士大夫たちが描いた絵を南宗画と呼びました。つまり、明清代までの中国では「南画=文人画」といっても差し支えないでしょう。

ところが日本ではこの解釈が微妙に違ってきます。というのは、日本には室町時代に北宗画ともいべき水墨画が画僧を通じて多く入ってきていますし、江戸時代になって鎖国がひかれてからも長崎を通じて南宗画だけでなく北宗画も多く入ってきており、先に述べたように日本の武士階級をはじめとする知識人たちはこれらの絵画を取り込み、独自のスタイルとして発展させていったため、日本では「南画=文人画」とは必ずしもいえない、ということになるのです。

明治になり、西洋絵画の流入、伝統的日本絵画復興の流れのなかで、文人画も南画も同じスタイルに映ったためか、「真の絵画の敵」として美術教育の中心から外され衰退の一途をたどることになります。しかし、そのようななかでも富岡鉄斎のように「私は画師ではなく文人である」と称して、近世からの古画習熟という伝統を継承し、後に登場する多くの画家たちに影響を与えた人物も現れます。彼は同じ文人画家の田能村直入と「日本南画協会」を設立し、これは後に「日本南画院」となって現在も活動を続けています。

(主任 辰巳 充)

文人画の表具

「表具(ひょうぐ)」とは布や紙などをはるることによって「仕立てられたもの」を指します。例えば、紙や絹などをはって仕立てられた掛け軸や巻物、屏風などは全て「表具」と呼ばれ、これらを仕立てることを「表装(ひょうそう)する」といいます。元々は平安から鎌倉時代にかけて経典や仏画を保護・装飾することから始められましたが、室町時代以降に床の間が発展したことや茶の湯が流行したことなどから、観賞用の表具制作が盛んにおこなわれるようになりました。なかでも千利休が茶の席における重要性を説いたことから、水墨画の表具については掛け軸が大変注目され、また狩野派や土佐派などで盛んであった屏風や襖絵などの絵画に比べて安価に多様な種類のものを作製または手に入れることができたため、爆発的な流行を生み出しました。

江戸時代に入り、中国の明清画が日本に渡来して独自の発展をとげます。これが文人画と呼ばれるものですが、この文人画の流入と同時に明朝(みんちょう)表具という表装様式が中国からもたらされます。これは掛け軸の左右の端に縁をつけて仕立てたもので、明の時代に流行したことからこう呼ばれます。また、同じ様式で縁の無い「袋表具(袋仕立て)」なども江戸時代の中ごろから日本で広まりました。これらは文人表具と呼ばれ、室町時代以降盛んであった装飾性の高い大和表具とは異なり、金襴緞子や紗といった裂(きれ)で彩られた天地(上下)や風帯の無い簡素な表装様式であったため、清楚を旨とした文人墨客たちや知識人たちの間で好まれ、盛んに用いられました。

明治から大正にかけて文人画は衰退していきましたが、日本画の隆盛とともに掛け軸も華やかなものが多く作られました。しかし、昭和以降、戦中戦後をとおして掛け軸の需要が激減したことと、生活様式の洋風化により家屋も洋風化していったことから、床の間のある家が少なくなったので、今では掛け軸に限らず表装された作品を一般の家庭で目にするのは難しくなっています。

(主任 辰巳 充)



高芙蓉《萬羊輕煙》 田辺市立美術館寄託品

INFORMATION

★特別展:「コレクションに見る文人画と南画」

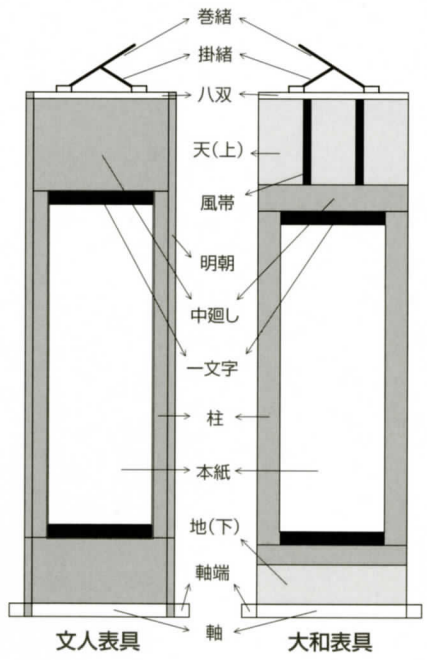
会場 / 田辺市立美術館
熊野古道なかへち美術館

会期 / (前期) 4月14日(土)~5月20日(日)
(後期) 5月26日(土)~7月1日(日)

休館日 / 毎週月曜日(ただし4月30日は開館)
5月1日(火)・5月21日(月)~5月25日(金)

主催 / 田辺市立美術館
熊野古道なかへち美術館

観覧料 / 250円(200円)
学生及び18歳未満は無料
※()内は20名様以上の団体割引料金です。



熊野古道なかへち美術館休館のお知らせ

本年9月24日から来年2月1日までの約4ヶ月間、熊野古道なかへち美術館は施設改修工事等のために臨時休館いたします。当館は、一昨年に建築界のノーベル賞と言われるプリツカー賞を受賞した国際的に活躍する妹島和世+西沢立衛/SANAAの設計によるもので、建築自体が一つの作品とも言える美術館ですが、1997(平成9)年3月の竣工から14年が経過し、近年は屋根の防水及び壁面などに問題が生じてきていました。来年の開館15周年を迎えるにあたって、課題となっていたこれらの改修工事を行います。長期にわたりご迷惑をおかけしますが、ご理解のほどお願い申し上げます。なお、工事終了後来年2月からは特別展「林憲昭展 ひかりのかたち」を開催します。再び多くの皆様にご来館いただけることを期待しています。(学芸員 山本 泰代)

平成24年度

展覧会スケジュール

■ 田辺市立美術館

H.24 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H.25 1月	2月	3月	
①特別展 コレクションに見る 文人画と南画 (前期) 4/14(土)~5/20(日) (後期) 5/26(土)~7/1(日) 展示替のため休館 5/21(月)~5/25(金)			②特別展 画家とバレット 展示替のため休館		③特別展 詩人たちの絵画 展示替のため休館		④-a 小企画展 素描とともに (前期) 11/17(土)~ 12/16(日) 展示替のため休館	⑤特別展 朝井閑右衛門展 展示替のため休館		④-b 小企画展 素描とともに (後期) 3/2(土)~ 3/24(日)		

■ 熊野古道なかへち美術館

H.24 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H.25 1月	2月	3月
①特別展 コレクションに見る 文人画と南画 (前期) 4/14(土)~5/20(日) (後期) 5/26(土)~7/1(日) 展示替のため休館 5/21(月)~5/25(金)			②特別展 花井正子展 紀州 LIVE...いとなみ 展示替のため休館					改修工事及び展示替のため休館 9/24(月)~2/1(金)			③特別展 林憲昭展 ひかりのかたち 2/2(土)~3/24(日)

▲ 平成24年度の展覧会スケジュールです。切り取って▲印のところで三つ折りして携帯してください。

REPORT 【「現代のクレパス画」展ワークショップ】

大人のためのクレパス画教室
【日時】9月17日(土)13:00~16:00 【場所】田辺市立美術館 研修室

昨年の夏から秋にかけて開催した「現代のクレパス画」展の会期中に、2回のワークショップを行いました。夏休み期間中の8月に小学生を対象とした「こどものためのクレパス画教室」を開き(この内容は前号でご紹介しました)、9月に中学生以上を対象とした「大人のためのクレパス画教室」を催しました。

大人のための教室では、再びサクラアートミュージアムの清水靖子さんにお越しいただいて、クレパスの画材としての特徴を解説していただいた後、実際にクレパス画に用いられる様々な技法を試みてゆきました。重色、混色といった基本的な扱いから、種々の道具を用いた表現や、直接描くのではなくクレパスをインクのように使って紙に転写する版画風の技法まで、3時間の間に盛りだくさんのたいへん充実した内容でした。

清水さんの巧みな指導で、ワークショップを通じてクレパスという画材や、クレパス画の表現についての理解を深めていただいただけでなく、参加者の方々それぞれが表現することの喜び、楽しみも感じられていたように思います。(学芸員 三谷 渉)



クレパスでアルミ板に描いた図版を紙に転写する版画風の技法に取り組んでいるところです。

REPORT 【「版画に見る印象派」展記念講演会】

【日時】11月12日(土)14:00~15:30 【場所】田辺市立美術館 研修室

昨年の秋に開催した「版画に見る印象派 陽のあたる午後、天使の指がそっと」展の会期中、展覧会の監修にもあたっていただいた、美術史家で女子美術大学名誉教授の大森達次先生をお招きして「印象派の版画とイメージの自在な操作」と題した講演をしていただきました。

E. マネを題材に、19世紀後半のフランスにおいて出現した、版画や複製技術の革新によるイメージの氾濫が画家の制作、表現にどのような影響をおよぼしたかを、綿密な史料調査による研究の成果をもとに解説していただきました。印象派の版画のみならず、現代の美術の状況にも通じるたいへん興味深い内容で、聴講の方々も熱心に聞きっていました。(学芸員 三谷 渉)

※大森先生の論考「マネを通してみる19世紀の版画の世界」と出品作品すべてのカラー図版、解説を掲載した展覧会図録はまだ残部があります。ご関心の方はお問い合わせ下さい。



詳細な比較分析によってE. マネの版画作品の特質が浮かびあがりました。

新収蔵作品の紹介

昨年度は2点の油彩画のご寄贈をいただきました。1点は図版の鍋井克之(1888~1969)の作品(ツキサップの林檎園)です。鍋井は生涯に亘って風景画を制作の主とし、油彩画による日本の風景表現をうかがう際には欠くことのできない秀作の数々を残しました。現地での制作を重視し、モチーフを求めて全国各地を訪れましたが、晩年の特徴的な連作の一つに北海道の林檎園の風景があります。ご寄贈いただいた作品はその端緒となったもので、その制作の現場にも立ち会った、鍋井に師事していた画家のご所蔵だったものです。当館が2001年に開催した特別展「鍋井克之展」の際にご出品いただき、それがこの度のご寄贈のきっかけとなりました。

もう1点の作品は、理知的な構成的抽象絵画を描き、長く和歌山大学で教官を務めた画家、山口信郎(1926~2010)の作品(1955年頃/91.1×72.7cm/油彩・カンバス)です。惜しくも2年前に逝去されましたが、ご遺族や指導を受けた方々の篤志によって、遺された重要な作品のいくつかが当館以外にも和歌山県立近代美術館、和歌山大学などに収蔵されました。当館にご寄贈いただいた作品は山口が幾何学的な抽象絵画の制作に入った最初期のもので、亡くなるまで住まいに掲額されていたものです。(学芸員 三谷 渉)



鍋井克之(ツキサップの林檎園) 1960(昭和35)年 38.0×61.2cm 油彩・カンバス